

## おわりに — 次期計画策定に向けて —

### (1) JSCE2010 見直しと次期計画策定プロセス

JSCE2010 の計画期間は、2008 年度から 2012 年度の 5 か年間であり、基本目標、2010 目標を達成するため、年度ごとに PDCA マネジメントシステムを運用することとしている。この際 2010 目標に対するアクションプランを必要に応じて見直すこととする。

JSCE2010 の見直し、すなわち次期計画策定については、

- ・ 2010 年 9 月頃まで企画委員会が新計画の策定方針を決定し
- ・ 2010 年 9 月の各部門自己評価結果に基づき、企画委員会が「JSCE2010 中間評価」を 2011 年 5 月頃までに作成

することからスタートすることになる。その後の策定プロセスは今回 (p. 3 参照) が参考になるものと考えられる。

なお、「JSCE2010 中間評価」においては、4 つの重点目標について特に定量的かつ多角的に評価する必要がある。

### (2) 新たな計画策定に向けた留意事項

土木学会は 2014 年度に創立 100 周年を迎える。このため次期計画は、それまでの 100 年間でレビューし次の 100 年に向けた第 1 歩となる重要な位置づけをもつと考えられる。

そこで、次期計画策定に際して次の点を留意すべき事項として申し送る。

#### ①「バックキャスト」手法により土木技術者、土木学会の役割を設定する

JSCE2010 策定に際しての土木技術者、土木学会の役割は、社会・世界の現状認識をもとに設定している。次期計画は、次の 100 年に向けた第 1 歩となるものであることから、2050 年、2100 年といった超長期の社会・世界の状況を予想し、そこから「バックキャスト」して、土木技術者、土木学会のあるべき役割を設定するのがよい。

#### ②外部ヒアリングを重視する

土木学会活動を社会の要請に応えるものとするためには、学会員のみならず学会員以外の、一般市民の声を聞くことも重要であることから、JSCE2010 策定に際しては、JSCE20XX シリーズでは初めて外部ヒアリングを実施した。この外部ヒアリング結果要旨は参考資料に示すとおりであるが、示唆に富む意見が数多く寄せられた。このため、次期計画策定に際してもより多くの外部の方々から意見をいただくことが有益である。